

# 大阪・関西万博における食品ロス削減の取組について

2025年3月19日 第11回食品ロス削減推進会議

公益社団法人  
2025年日本国際博覧会協会  
持続可能性局



# 25days to go!

2025年4月13日(日)– 10月13日(月) 184日間

テーマ

## いのち輝く未来社会のデザイン

Designing Future Society for Our Lives

サブテーマ

**Saving Lives**

(いのちを救う)

**Empowering Lives**

(いのちに力を与える)

**Connecting Lives**

(いのちをつなぐ)

コンセプト

## -People's Living Lab -

未来社会の実験場

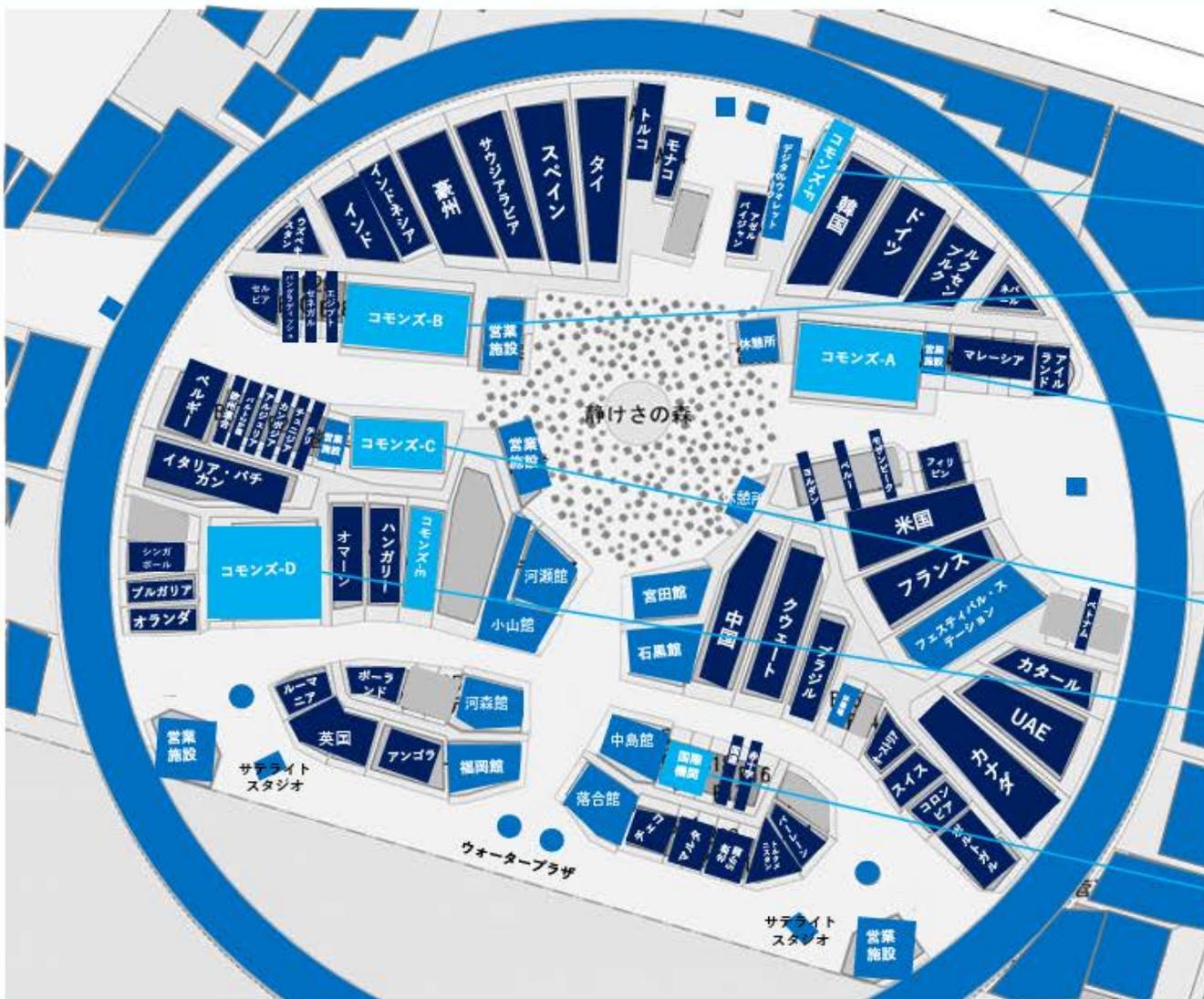


- 名称：2025年日本国際博覧会（略称:大阪・関西万博）
- 会期：2025年4月13日～10月13日（184日間）
- 会場：夢洲（ゆめしま）（大阪市此花区）
- テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン
- サブテーマ：いのちを救う、  
いのちに力を与える、いのちをつなぐ
- コンセプト：未来社会の実験場

# 1. 万博概要 (3) アクセス地図



# 1. 万博概要 (4) 海外パビリオンの出展状況



- 海外パビリオン（単独館）：64か国、3国際機関
- 海外パビリオン（共同館）：89か国、5国際機関
- 民間パビリオン・協会利用建物等

※区画決定済みの国・機関のみを記載

### 共同館区画※

- <コモンズ-F> (2か国)
  - ・ アルメニア、カザフスタン
- <コモンズ-B> (24か国)
  - ・ エチオピア、ガイアナ、ガンビア、コートジボワール、ザンビア、シエラレオネ、ジブチ、ジャマイカ、ジンバブエ、セントビンセント及びグレナディーン諸島、ソマリア、タンザニア、中央アフリカ、ツバル、ドミニカ共和国、ナウル、ハイチ、パラグアイ、東ティモール、フィジー、ベナン、ミクロネシア、モーリタニア、レソト
- <コモンズ-A> (28か国)
  - ・ イエメン、ウガンダ、エスワティニ、ガーナ、北マケドニア、ギニアビサウ、キルギス、ケニア、コソボ、コモロ、サモア、スリナム、スリランカ、セーシェル、セントクリストファー・ネイビス、セントルシア、ソロモン諸島、トリニダード・トバゴ、トンガ、バヌアツ、バプアニューギニア、パラオ、バルバドス、ブルンジ、ホリビア、マラウイ、モーリシャス、ルワンダ
- <コモンズ-C> (10か国)
  - ・ イスラエル、ウルグアイ、ガボン、グアテマラ、クロアチア、サンマリノ、スロバキア、スロベニア、パナマ、モンテネグロ
- <コモンズ-D> (25か国)
  - ・ アンティグア・バーブーダ、カメルーン、ギニア、キューバ、コンゴ民主共和国、サントメ・プリンシペ、スーダン、赤道ギニア、タジキスタン、トーゴ、ナイジェリア、パキスタン、パレスチナ、ブータン、ブルキナファソ、ベリーズ、ホンジュラス、マーシャル諸島、マダガスカル、マリ、南スーダン、モルドバ、モンゴル、ラオス、リベリア
- <国際機関共同館> (5国際機関)
  - ・ アフリカ連合委員会、イーター国際核融合エネルギー機構、国際科学技術センター、太陽に関する国際的な同盟、東南アジア諸国連合事務局

[https://www.meti.go.jp/policy/exhibition/top\\_picture/saishinnodoukou2.pdf](https://www.meti.go.jp/policy/exhibition/top_picture/saishinnodoukou2.pdf)

# 1. 万博概要 (5) 営業施設



### 現在の最先端と未来を体験！

- ・ 先進性、経済性があり、採用可能な技術・仕組みにて万博を運営
- ・ 2050年を見据えて開発していくべき技術の展示・実証を実施

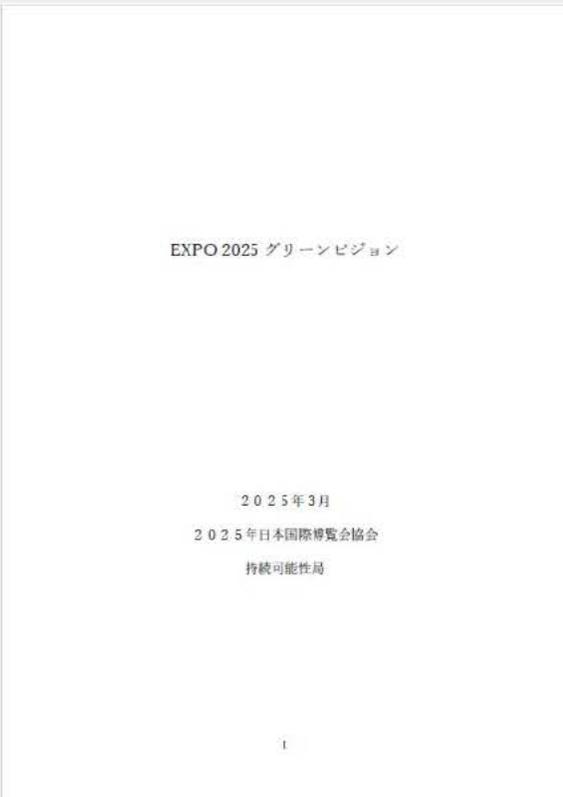


### 3. EXPO 2025 グリーンビジョン（資源循環をはじめとする環境関連の取組について）



- 大阪・関西万博では、カーボンニュートラルの実現、資源循環や生物多様性に関する基本的な考え方や具体的な取組内容を示した「EXPO 2025 グリーンビジョン」（以下、グリーンビジョン）を策定しています。
- 2022年度から毎年改定しており、2025年3月に最終版を公表。

EXPO 2025 グリーンビジョン		
はじめに		
<b>I. 脱炭素編</b>	<b>II. 資源循環・循環経済編</b>	<b>III. 自然環境編</b>
1. 脱炭素をめぐる国内外の動き	1. 資源循環・循環経済をめぐる国内外の動き	1. 自然環境の取組の背景
2. カーボンニュートラルに向けた会場運営	2. 国内外の動きを踏まえた大阪・関西万博の取組の基本的考え方	2. 具体的取組
3. 2050年に向けた脱炭素社会の具体像の揭示	3. 会場運営関係の廃棄物等	<b>IV. 横断的事項</b>
4. 将来に向けた行動変容の取組（EXPOグリーンチャレンジ）	4. 建設段階から会期後を見渡した施設設備の廃棄物等	1. 若者、子どもに対する取組（ジュニアSDGsキャンプ）
5. ブルーカーボン		2. その他（企業との連携等）



### 国内外の動きを踏まえた取組の基本的な考え方

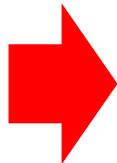
- 政府の基本的な方針である3R+Renewableや食品リサイクルの優先順位を踏まえ、特に排出量が多く留意すべき事項として、①プラスチック対策、②食品ロス対策、③紙の使用量削減、④施設設備のリユースが挙げられる。
- プラスチック対策については、プラスチック資源循環戦略に掲げられた特定プラスチック製品を中心に、ワンウェイプラスチックの削減、容器包装のリユース・リサイクル、バイオマスプラスチックの導入等プラスチック資源循環戦略に掲げられた2030年等の目標を前倒して目指していく。
- 食品ロス対策、食品リサイクル対策は法律に基づいた目標を最低限のものとして、国内の最先端の取組を参考にして、最先端の取組と同等の取組を行う。
- 紙については、国内での直近の重要な目標はないものの、デジタル万博を標榜する大阪・関西万博として、国際的な会議、イベントに遜色のないレベルで紙の消費を削減していく。
- 施設設備のリユースについては、解体時に分別しやすい建築構造・工法の採用や、建築物の簡素化・軽量化などを進めるとともに、木材等再生可能な資源を利用する。

## 5. EXPO 2025 グリーンビジョンに基づく主な取組（会場運営関係）

資源循環型社会の実現に向けて、リデュース・リユースにより廃棄物を最大限削減した上で、分別排出された資源のリサイクルを徹底する。具体的には、フードトラックエリアにおけるリユース食器の運用、マイボトルの持ち込み推奨と会場内に来場者が利用できる給水機の設置、マイバッグ持参呼びかけのプラスチック対策、食品ロス削減対策などに取り組む。

### プラスチック対策

- 食器類等の取組
  - フードトラックエリアでのリユース食器の導入
  - フードトラックエリア（一部）での生分解性プラスチック食器の導入、食品廃棄物と合わせた堆肥化
  - マイボトルを会場内で利用できる環境の整備
  - ペットボトルの分別や回収の徹底及び水平リサイクルの実施等
- 容器包装、ノベルティ、配布物等
  - マイバッグ持参呼びかけ、販売・配布する場合はエコバッグ、紙袋を優先
  - 傘袋、うちわ、不織布おしぼり等の対策



### 食品対策

- 食品ロス削減対策
  - 食べきれぬ量やサイズのメニュー提供
  - 来場者への食べ残し削減の呼びかけ
  - 売れ残りそうな弁当等の販売対策
  - 賞味期限に余裕のある食材等をフードバンクに寄贈するための連携の場の提供
  - 店舗で実施する食品ロス削減対策に関する資料の提出
  - 食品廃棄物排出量の可視化
- 食品廃棄物のリサイクル
  - 会場内でのバイオガス化、会場内外における堆肥化等の資源化

### その他

- 電子化による紙の削減
- リサイクル前提の会場装飾
- ユニフォームの持続可能性配慮
- 期待される行動様式の具体化と来場者への発信

### 店舗で取り組む食品ロス削減対策

1. 廃棄が少なくなるよう調達方法や調達量を管理・工夫し、食材を調達する。
2. 無理なく食べきれる量やサイズを提供する。
3. 無理なく食べきれる量やサイズを注文することや食べきりを来場者に呼びかける。
4. 食べ残しのないよう、ナッジなどの手法の導入を検討する。⇒シート12
5. 参加者は、賞味期限・消費期限に余裕があり、品質が担保された余った食材等をこども食堂やフードバンクに寄贈することを検討する。また、博覧会協会は寄贈のための連携の場を提供することを検討する。
6. 売れ残りそうな弁当等を希望者が簡単に入手できるような仕組み（博覧会協会が準備）を活用する等食品ロスの削減に努める。⇒シート13
7. 博覧会協会が協会公式ホームページ等に示す食品ロス削減の対策例を参考に食品ロスの削減に取り組む（参加者が企画するパーティーの食事、イベントやパビリオンにて手配するスタッフ用の食事等含む）。⇒シート14

## 7. 店舗で取り組む食品ロス削減対策（事例1）

「食べ残しのないよう、ナッジなどの手法の導入を検討する。」

### ■啓発ツールの設置

- 消費者庁が2024年度に実施した「2025年大阪・関西万博に向けた食品ロス削減実証事業」で啓発クリエイティブのデザインが決定。
- 万博会場内の飲食店舗に食品ロス削減啓発資材として、卓上三角POP、ステッカー等を設置予定。

ステッカー



卓上三角POP

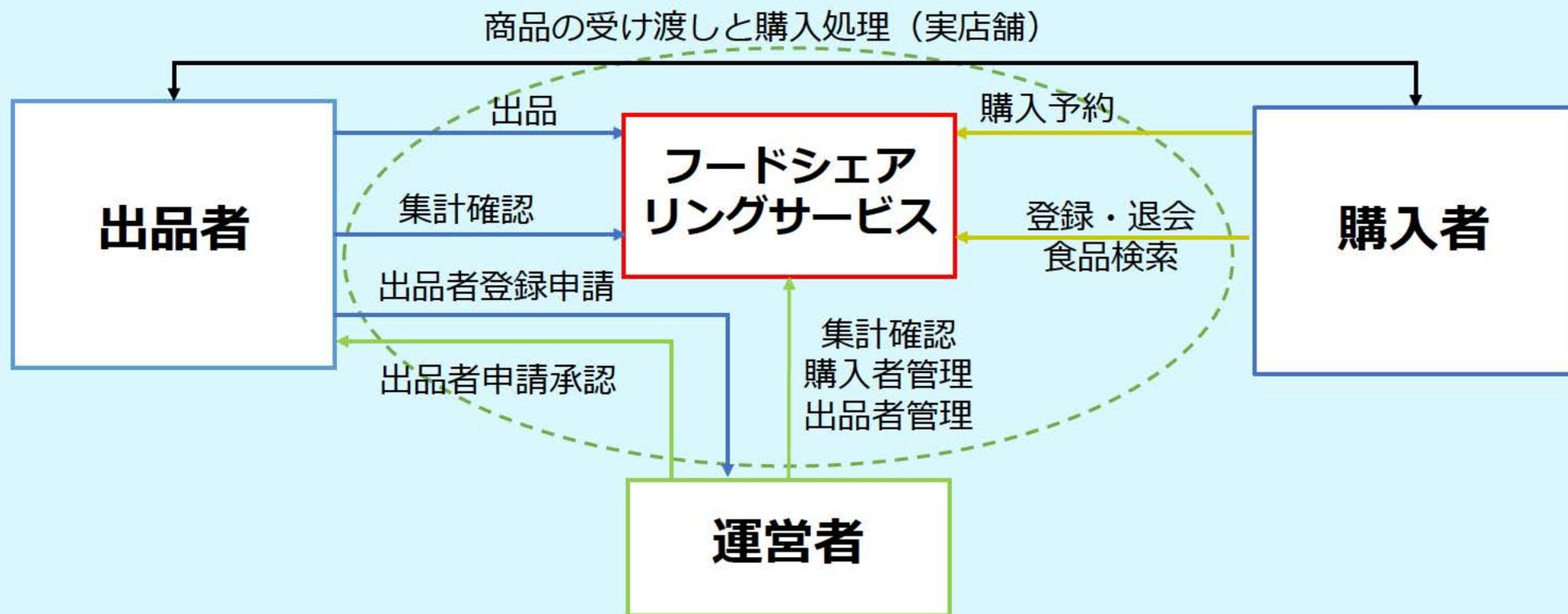


## 7. 店舗で取り組む食品ロス削減対策（事例2）

「売れ残りそうな弁当等を希望者が簡単に入手できるような仕組み（博覧会協会が準備）を活用する等食品ロスの削減に努める。」

### ■ 万博会場で飲食事業者が無償で使用可能なフードシェアリングサービス

- 運営協賛により食品ロス削減アプリを飲食事業者案内。
- 出品者、購入者ともに無料で利用可能。
- 万博会場における飲食事業者（出品者）が、店舗で売れ残りが予測される食品をウェブ上に出品。
- 会場内の希望者がウェブ予約し、販売している実店舗に訪れ、支払いと商品の受け取りを行う仕組み。



## 7. 店舗で取り組む食品ロス削減対策（事例3）

「博覧会協会が協会公式ホームページ等を示す食品ロス削減の対策例を参考に食品ロスの削減に取り組む（参加者が企画するパーティーの食事、イベントやパビリオンにて手配するスタッフ用の食事等含む）。」

### ■ 立食パーティー等の対策例（協会ホームページに掲載を予定）

#### 《運営者・飲食事業者向け》

- ① 食べ残しが少なくなるよう主催者と食事量やメニューに関して相談する。
- ② 小分けメニュー等、食べ残しが少ないようなメニューを準備する。
- ③ 中締めや終了後に主催者側に食事を促す。

#### 《主催者向け》

- ① 参加予定人数を正確に把握し、発注する。
- ② 一人あたりの提供量（一人前の量）を飲食提供者に事前に確認し、発注する。
- ③ 参加者の嗜好、年齢層等を考えながら食べきれぬ量を手配する。
- ④ 小皿盛メニューやフィンガーフード等、参加者が取りやすく・食べやすい食事が余りにくいと言われているため参考にする。
- ⑤ 上記を含めどのようなメニューの提供が好ましいか、飲食提供者と相談する。
- ⑥ パーティーの目的として、食事がメインとなるような場合、提供量は喫食予定者の7割相当が適量という分析があるため参考にする。また、食事ではなく社交が中心となる場合は、さらに提供量を減らすことも有効と考えられるため参考にする。

### より効果的に食品ロス削減を促すための仕組み

8. 店舗で取り組む予定の具体的な食品ロス削減対策を、会期前に博覧会協会が指定する書式に記載し、提出する。
9. 会期中は、上記の対策に取り組み、食品ロスの削減に努める。
10. 会期中に発生した食品廃棄物の排出量に関して、博覧会協会がデータを公表する際は必要なデータの提出とその利用に協力する。
11. 会期中に発生した食品廃棄物の排出量等の実績値を参考に、さらなる食品ロス削減に日々取り組む。
12. 会期終了前後に、博覧会協会が行う食品ロス削減対策等に関するアンケートに協力する。
13. 博覧会協会は上記の提出資料やデータを、協会公式ホームページや会期後に作成する報告書等で公表する。

## 9. 食品廃棄物に係る削減目標・リサイクル目標

種別	BAU	削減目標				リサイクル目標	
	排出量 [t]	削減量 [t]	削減率 [%]	削減後量 [t]	原単位 [g/人]	リサイクル量 [t]	リサイクル率 [%]
≈	≈	≈	≈	≈	≈	≈	≈
生ごみ（食品廃棄物）	1,501.2	321.2	21.4	1,179.9	41.8	<b>1,179.9</b>	<b>100.0</b>
≈	≈	≈	≈	≈	≈	≈	≈
合計（全廃棄物）	9,708.5	1,442.3	14.9	8,266.2	293.1	4,717.8	57.1

これまで示したような食品ロス削減対策により、食品廃棄物の排出量削減を行う。  
 その上でも排出された食品廃棄物は、下記の方法で全量リサイクルの予定である。

- 会場内の日本館及びカーボンリサイクルファクトリーにおいてバイオガス化
- 会場内に設置するコンポスト機で堆肥化
- 会場外の堆肥化施設で堆肥化